救急医療・災害医療

北海道の救急医療と災害医療について考える

札幌医科大学医学部救急医学講座教授・
高度救命救急センター長
成松（なりまつ）　英智（えいち）

1．はじめに

このたび北海道医報生涯教育シリーズXXV『救急医療・災害医療』の監修を担当いたします、札幌医科大学医学部救急医学講座・高度救命救急センター　成松です。北海道における救急医療・災害医療の現況と将来の考察にあたっては、患者診療の迅速着実な遂行に加えて、周辺地域や医療圏全体の医療資源・医療環境の活用と協働をも十分勘案した上での患者治療戦略の視点が肝要と考えます。

特に高い緊急性や高度先進医療を要する重症救急医療では、病院搬入後の迅速な医療遂行に加えて、医療機関や医師自らの専門性、患者重症度・緊急度および病態等に基づいた「治療継続あるいは他院への診療依頼・転院の判断」および「的確な搬送」が患者予後を左右します。この総合判断のためには、たとえ専門外であっても各種重症救急病態と、その治療およびトリアージに関する一定程度の医療情報を得ておくことが必要です。

一方、災害時には被災地域の医療機関や医療システムの破綻、機能低下および混乱の可能性が、また被災地域外でも長距離搬送による被災患者収容の需要発生の可能性があります。このため医療モードは目前の患者だけではなく被災患者全体の総合的治療成果を目標とするものとなり、また地域の医療システム全体として災害患者や地域住民の医療を展開していく必要があります。

2．北海道の救急医療の地域性

広大な北海道において、医療機関の都市部集中は救急医療上の悩みの種です。特に非都市部では距離的要因により医療機関までの患者搬送や移動に時間を要する場合があります。また重症救急や専門救急に対応可能な医療機関が近隣になく、近隣医療機関が緊急回避的に重症救急患者を収容した場合には、その後の治療継続が困難となる場合があります。これらへの対応策として北海道では救急搬送システム（陸上、回転翼、固定翼医療搬送等）の体制整備が進められていますが、物理的問題である距離の壁は高く、未解決分野が多く残されています。また北海道特有の自然環境とその近年の変化、特に気候変動（夏季暑熱化や冬季厳冬化）も、熱中症の増加や冬季の患者搬送困難等の面で北海道の救急医療に影響を及ぼしています。これらの要因を総合的に勘案しながら病院内での診療にとどまらない地域性に合わせた救急医療体制の構築が必要と考えます。

3．北海道の災害医療の地域性

また災害発生時には、短時間内の多数傷病者発生や施設・インフラ障害等による医療機関の機能低下の中で「最多数患者への最大治療効率」や「災害関連死者数の最少化」を目標にした医療が展開され、

生涯教育シリーズXXV「救急医療・災害医療」
（医報　令和７年６月号から順次掲載）

	項目	執筆者	所　属	医報掲載予定
1	北海道の救急医療と災害医療について考える	成松　英智	札幌医科大学医学部救急医学講座教授 高度救命救急センター長	令和７年６月号
2	北海道の救急医療体制について	上村　修二	札幌医科大学医学部救急医学講座准教授	〃　７月号
3	呼吸不全・ECMO	和田健志郎	JA北海道厚生連帯広厚生病院救急科医長	〃　８月号
4	敗血症性ショック	和田　剛志	北海道大学大学院医学研究院侵襲制御医学分野 救急医学教室教授	〃　９月号
5	虚血性心疾患	岡田　　基	旭川医科大学救急医学講座教授 救命救急センター長	〃　10月号
6	頭部外傷	宮田　　圭	手稲渓仁会病院脳神経外科主任医長	〃　11月号
7	腹部外傷	原田　敬介	札幌医科大学医学部救急医学講座講師 高度救命救急センター副センター長	〃　12月号
8	ドクターヘリ、メディカルウイング	奈良　　理	手稲渓仁会病院副院長	令和８年１月号
9	救急医療と倫理問題	井上　弘行	札幌市夜間急病センター長	〃　２月号
10	災害医療コーディネート	水野　浩利	札幌医科大学医学部救急医学講座助教	〃　３月号
11	トリアージ	葛西　毅彦	札幌医科大学医学部救急医学講座助教	〃　４月号
12	国際緊急援助隊	沢本　圭悟	札幌医科大学医学部救急医学講座助教	〃　５月号

地域や医療圏単位でのマクロな医療の考え方が求められます。北海道には地震、津波、火山、天候等による自然災害のほか、原子力災害、人為災害、テロ、有事等の災害想定があります。災害発生時の迅速な医療活動開始には事前の想定、対処企画、準備が必要です。災害の種類や被災状況によっては本州以南から北海道へのDMATやJMAT等の医療支援や物資の到達に長時間を要する可能性もあります。このため到達までの超急性期には道内の人的・物的医療資源で災害医療を支える必要があります。また被災地になった場合に、支援を効率的に受けるための「受援体制」の構築も必要です。

このような地域の特徴を踏まえた平時からの医療計画策定と、発災時の災害医療の実行が求められます。

本章では巻頭言として北海道の救急医療・災害医療についての所感を述べさせていただきました。各章では幅広い救急医学領域に関する最先端医学・医療情報や、北海道の地域性を考慮した救急医療・災害医療に関する内容が執筆される予定です。このシリーズが北海道の医師、医療関係者の皆様のお役に立てれば幸いです。

「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について

◇救急医療部◇

当会ホームページでは急病・急な症状時の対応を紹介する「応急手当WEB」、救急医療機関の適切な利用について理解を深めてもらう「救急医療啓発パンフレット」を登載しております。

これらの情報をより一層周知することにご協力いただけます医療機関におかれましては、自院ホームページに下記掲載URLへのリンクをお願いいたします。

なお、リンク掲載後のご連絡は不要ですが、今後の連携強化のため、リンクのご一報をいただければ幸いです。

●応急手当WEB
http://www.hokkaido.med.or.jp/firstaid/

●救急医療啓発パンフレット
http://www.hokkaido.med.or.jp/hokkaido/ambulance.html

連絡先：北海道医師会事業第三課
TEL　011-231-1726　　FAX　011-210-4514　　E-mail　3ka@m.doui.jp

感染症関連情報

感染症に関する日本医師会からの通知等は、北海道医師会ホームページ「医師の皆様へ－感染症情報」に掲載しています。

ＵＲＬ：http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/infection.html